

聖書箇所: マタイの福音書26章1~13節

『いつまでも残るもの(2)』

【1】 香油を注いだ女性

- ・ マリア(ヨハネ 12:3)がしたこと
- ・ 来訪客へのもてなしの範囲を超えていたマリアの行為
- ・ 香油を注ぐということ
 - ① 埋葬の時に遺体になるため香油を用いた
 - ② 「メシア」(救い主) = 「油注がれた者」
- ・ 憤慨し「無駄なこと」と非難した弟子たち
- ・ 逆に、「わたしを埋葬する備えをしてくれた」(26:12)と称賛したイエス
- ・ マリアの行為の理由
 - 愛と献身の表現

【2】 良いことをしてくれた

- ・ この出来事のタイミング：
「受難予告~殺害計画」(マタイ 26:1~5)と「裏切り~引き渡し」(同 23:14~16)の間。
- ・ 受難予告に対する弟子たちの応答
- ・ 孤独のイエスを慰め励ました香油注ぎ

【3】 いつまでも残るもの

- ・ 香油以上に高価なものとは
 - ・ 「何のために、こんな無駄なことを…」であったイエスの十字架
 - ・ 神が私たちが愛している理由
 - 私たちが良い人間であるからではない
 - 神ご自身が良いお方であるから
- 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ 3:16)
- ・ マリアのイエスに対する献身と愛は、記念として今も語り継がれている

▷ 私たちも「いつまでも残るもの」、キリストの愛に生かされ、キリストの愛によって、互いを愛することができますように。

